

平成二十六年 度

推薦入試試験問題

(文学科 日本語日本文学専攻)

注意事項

- 1 解答は、すべて解答用紙に縦書きで記入してください。
- 2 白紙は、下書きとして使用してください。
- 3 受験票とこの問題用紙および白紙は持ち帰ってください。

課題

次の文章は教科書調査官として国語教科書の検定に関わった著者の経験に基づくものです。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

（白石良夫『古語と現代語のあいだ ミッシングリンクを紐解く』二〇一三年、NHK出版、125〜131ページより作成。小見出しは省略した。）

注1 彫った版木で印刷した本。木版本。

注2 平安時代の和歌や文章にならって作られた文章。

注3 写本（手書きの本）や版本の内容を活字化すること。古典作品の場合、漢字や仮名の異体字を現行の字体に改め、仮名遣いを歴史的仮名遣いに統一することが通例で、振り仮名を加えることも多い。濁点については写本や版本では不完全にしか施されていないことが多いため、その時代に合わせて濁点を附すことになる。翻刻の際に、他の本と比べ合わせて欠落や誤りを補訂することを校訂といい、これに註（注釈）を加えたものを校註という。

注4 写真複製本。

問一 古語のなかには「ゆふへ」（奈良時代）↓「ゆふべ」（平安時代）のように古くは清音だったのが濁音に変わった言葉があります。これを踏まえて、「たそ」の表記の変遷について、二〇〇字以内で本文をまとめなさい。

問二 秋成が「たぞ」を古代語だと考えていたとした場合、たとえばそうであっても、教科書には歴史的に正しい言葉である「たそ」を載せるべきであるとする意見があります。この意見に対するあなたの考えを、高等学校における古典学習での体験を交えて、六〇〇字以内で書きなさい。